

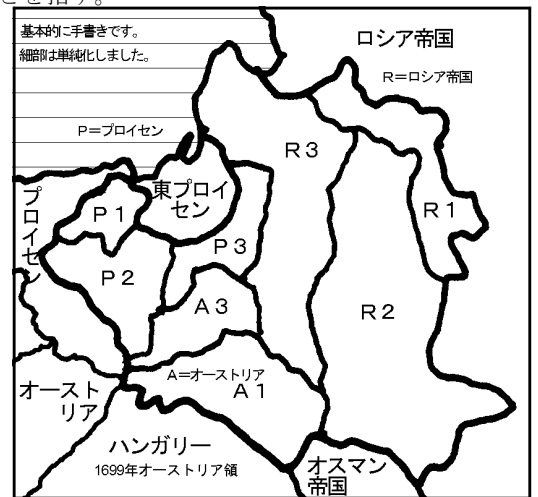
ポーランド分割

- 1) ポーランドは東欧で勢力をふるった大国だった。16世紀には、西ヨーロッパに穀物を輸出し、工業製品を輸入するという《西欧・オスト=エルベ》の経済システム (No.108) に組み込まれ、西欧への穀物輸出国に転落した。プロイセンと同じく、【1: 】を利用して穀物を増産した。当時の領主、小貴族をシュラフタと言うことがある。そのような時でさえ、左のような広大な領土を持っていた。
- 2) そのような植民地的な社会が温存されたため、領主の力は強くなり、彼らは西欧の上流階級のような生活を楽しんだ。ところが、農民は重い賦役に苦しみ、商業は外国人に握られ、都市と市民層は成長を抑えられていた。

- 3) 【2: 】 (あるいはヤゲロー朝) リトアニア=ポーランド王国 1386-1572 の最盛期は15世紀である (No.62参照)。厳密には、1569年、ポーランド王国はリトアニア大公国を吸収合併し、「ポーランド=リトアニア共和国」(1569-1795、共和国と言っても君主がいる) となった。その3年後の1572年、【2】は断絶し、「選挙王政」となり、貴族間の抗争などで政情不安定となった！この段階でさえ、ヨーロッパではオスマン帝国に次ぐ広大かつ膨大な人口を抱える巨大国家だった。分割の対象となったのは、リトアニア=ポーランド王国ではなく、このポーランドであり、この国は17世紀中葉以後、政治的、軍事的、経済的な衰退を続け、その凋落は非常に急速だった。
- 4) ポーランド分割とは、ポーランドが18世紀末の3度の分割で消滅したことを指す。

右図で P=プロイセン、A=オーストリア、R=ロシア
数字は第○回目

- ①第1回分割 (1772年) プロイセンがオーストリアを誘って、ロシアにポーランド分割を提案。ポーランドからP1、A1、R1の部分を取った。ここで、フランス革命が勃発 (1789年) し、西ヨーロッパ諸国の関心がフランスに集まった。次の②まで21年。
- ②第2回分割 (1793年) ポーランドは憲法制定 (1791) など近代化を行って抵抗したが、フランス革命の混乱下、1793年にプロイセンはロシアと第2回分割を強行、P2、R2の部分を取った。コシュエシコの率いる義勇軍の抵抗も失敗した。オーストリアは不参加。後掲6) 参照
- ③第3回分割 (1795年) プロイセン、オーストリア、ロシアは残りの国土を分割したため、ポーランドは消滅した。ウィーン体制下では実質ロシア領とされ、第1次世界大戦後に独立を回復した。



- 5) ポーランド分割時の3か国の君主をまとめよう。
まず、ポーランド分割を行った3か国を確認しよう。《頻出》
【3:】 (但し、第2回目はオーストリア抜き)

ロシア皇帝：3回ともエカチェリーナ2世

プロイセン国王：フリードリヒ2世 (第1回)、フリードリヒ=ヴィルヘルム2世 (第2回、第3回) ※1

オーストリア皇帝：ヨーゼフ2世 (位1765-90 第1回) ※2 フランツ2世 (位1792-1806 第3回) ※3

※1 No.112を参照せよ。プロイセン国王は①フリードリヒ1世、②フリードリヒ=ヴィルヘルム1世 (兵隊王)、③フリードリヒ2世 (大王)、④フリードリヒ=ヴィルヘルム2世、⑤フリードリヒ=ヴィルヘルム3世、⑥フリードリヒ=ヴィルヘルム4世 その次が⑦ヴィルヘルム1世で、⑦はドイツ帝国初代皇帝である。

森嶋外『舞姫』冒頭部分より抜粋 余は模糊 (もこ) たる功名の念と、検束に慣れたる勉強力とを持ちて、忽 (たちま) ちこの欧羅巴 (ヨーロッパ) の新大都の中央に立てり。…… (割愛) ……この大道髪 (かみ) の如きウンテル、デン、リンデンに來て両辺なる石だゝみの人道を行く隊々の士女を見よ。胸張り肩聳 (そび) えたる士官の、まだ維廉 (キルヘルム) 一世の街に臨める窗 (まど) に倚 (よ) り玉ふ頃なりければ、…… (以下割愛)

下線部のヴィルヘルム1世とは誰だろう？ 森嶋外留学当時のドイツ帝国皇帝だから⑦である。

※2 第1回の時、ヨーゼフ2世と共同統治だった母のマリア=テレジア 位1740-80 はポーランド分割に加わることに反対した。彼女は、ポーランドに領土を求めることはシュレジエンを永久に諦めることに通じると考えていたようだ。だから、多くの参考書は、第1回目の時は彼女が共同統治者として在位中であつたにも関わらず、実行者としてヨーゼフ2世だけをあげている。しかし、息子と宰相に何日も説得され、結局署名している。マリア=テレジアは第2回目、第3回目の時は既に死亡している。『世界史B用語集』(山川出版社2014年) はマリア=テレジアを実行者の一人と断定している。

※3 マリア=テレジアの孫、フランツ2世は最後の神聖ローマ皇帝 (在位1792~1806年)。1805年のアウステルリッツの戦い (三帝会戦) に敗れ、ナポレオンを保護者とするライン同盟が成立したため、1806年退位。神聖ローマ帝国は名実ともに滅亡した。オーストリア皇帝としてはフランツ1世 (在位1804~35年)。ナポレオン失脚後は、メッテルニヒに補佐され、ウィーン体制の維持に努めた。

- 6) 愛国者【4: 】 Kosciuszko 1746-1817、ポーランド分割に抵抗して奮戦。1793年から分割反対の闘争を指揮。一時はロシア軍を破って大活躍したが、負傷して捕らえられ、祖国も滅亡した。彼は、釈放後もポーランド独立回復のために努力し、死後、ポーランド解放のシンボルとされている。彼が戦った相手はエカチェリーナ2世。06C Kosciuszkoと綴り、日本語では「コシュエシコ」と記す。リトアニアの下級貴族の家に生まれ、フランス陸軍大学で学び、帰国後は砲兵大尉。1776年から84年まで、義勇兵としてアメリカ独立戦争に参加、ワシントンの副

官をつとめたというスゴイ軍歴の持ち主である。コシュートは「コシチューシコ」とも書くため、ハンガリーの愛国者、コシュート 1802-94と間違えやすい。

ハンガリーの愛国者コシュートは Kossuth と綴り、日本語では「コシュート」ないしは「コッシュート」と記す。フランス二月革命 (1848) 後の革命的情勢の中で、1849年ハンガリーの独立を宣言、執政官になったがロシア軍に敗北して亡命、ミラノで客死した。

2006 中央大学 2/14, 一般, 本学 経済学部(経済学科/公共経済学科) 抜粋

…アンリ 4 世がカトリックの聖職者によって暗殺された後、その王位を継承したのは、ルイ 13 世(在位 1610~43 年)であった。彼は、(ア) 宰相リシュリユー の補佐を得て王権の絶対化を推し進めていく。その結果、フランスの伝統的な身分制議会である三部会は、1614 年に召集・翌年に解散したものを最後として、フランス大革命前夜まで開催されることはなかった。

このような状況を受けて登場し、フランス絶対王政の最盛期を演出したのが「太陽王」ルイ 14 世(在位 1643~1715 年)である。彼が幼くして王位についた後、ブルボン家の王権伸張に抵抗する高等法院や貴族が 1648 年に(B)を起こしたが、宰相マザランによって結局は鎮圧された。その結果、ブルボン家の王権強化という路線が定着することになる。

1661 年には、ルイ 14 世による親政が開始された。彼は国王の権威を高めるために(C)宮殿を建設し、軍備を増強して南ネーデルラント継承戦争をはじめとする侵略戦争を度々引き起こしていく。その反面で、一般の国民は莫大な宮廷費や戦費を賄うための重税に苦しめられていた。なお、ルイ 14 世は 1685 年に(イ) ナントの勅令廃止 に踏み切り、宗教面でも絶対的権力をふるった。

ルイ 14 世の死後、さしものフランス絶対王政も陰りをみせはじめる。次のルイ 15 世(在位 1715~74 年)の時代には、外国貿易の面では順調に発展したが、オーストリア継承戦争や七年戦争への介入によって、多額の戦費の支出を強いられた。このような犠牲にもかかわらず、フランスは七年戦争に敗北してしまう。その講和条約として締結された 1763 年の(D)によって、フランスはカナダやミシシッピ川以東のルイジアナなどをイギリスに割譲し、多くの海外植民地を喪失することになった。それに加え、贅沢な宮廷生活を維持するための莫大な宮廷費もまた、フランス財政を逼迫させていった。(以下割愛)

問 1 空欄(B)~(D)に当てはまるもっとも適切な語句を記入しなさい。

問 2 下線部分(ア)の宰相リシュリユーが、宿敵ハプスブルク家の勢力減退を狙って参戦した戦争の名前は何か。

問 3 下線部分(イ)のナントの勅令廃止がもたらした経済的影響を 40 字以上 50 字以内で記入しなさい。

問 1 (B) フロンドの乱 (C) ヴェルサイユ (D) パリ条約

問 2 三十年戦争

問 3 信教の自由を奪われたユグノーの商工業者が大量に亡命したことで国内産業の発展が阻害された。(44 字)

2013 青山学院大学 2/19, 個別学部日程(A・B方式) 経済

ブランデンブルク選帝侯国は、1415 年以来(a) が世襲した。(a) は 1618 年に(イ) プロイセン公国 を相続し、そのプロイセン公国を 1701 年に王国へと昇格させることで王位を得た。このプロイセン王国を発展させた国王が(b) である。(b) は、「軍隊王」と呼ばれ、徴兵制を採用し軍隊を整備した。その後を継いだのが、「大王」と称される(c) である。(c) は、官僚制・軍隊の整備を進めるとともに、啓蒙思想に基づいて自国の近代化を目指し、(ニ) 啓蒙専制君主 の典型とされる。ただし、その統治の思想は(三) 身分制社会 を前提としており、民主的な社会を目指したものではなかった。

(c) が(四) 王 となった同年、オーストリアでは、(d) が(e) の家領を相続した。これに対し、(d) の継承に不服であった諸勢力との間で戦争が起こった。これが(f) である。プロイセンは、オーストリア領の一部である鉱工業が盛んな(g) 地方を望み、アーヘンの和約でその領有を認められた。

この戦争後、オーストリアは、(五) 15 世紀末のイタリア戦争以来敵対していたフランスとの協調関係に転換した。これによって、プロイセンは外交的に孤立することとなった。そのため、機先を制するためにプロイセンが先制攻撃をすることで再び戦争が始まった。プロイセンは、(六) ヨーロッパ内ではほとんど味方がなく苦戦したが、海外植民地でフランスが敗れたことなどが原因で、最終的には長期にわたる戦争を戦い抜き、強国の地位を確かなものにした。

他方で、プロイセンは、オーストリア、ロシアとともに、1772 年、1793 年、1795 年の三度に渡り、(h) を分割し消滅させた。

問 1 (a)~(h)に適語を記せ。(原問では選択式である。問 2 以下も同様。)

問 2 下線部分(1)について、プロイセン公国のあった地域を 13 世紀にカトリック化した騎士団は何か。

問 3 下線部分(2)について、啓蒙専制君主とされない人物 を一つ選べ。

① エカチェリーナ 2 世 ② ルイ 9 世 ③ カルロス 3 世 ④ ヨーゼフ 2 世

問 4 下線部分(3)について、この当時のプロイセンにおける将校の多くを占めた土地貴族は何と呼ばれるか。

問 5 下線部分(4)について、何年のことか。選べ。① 1648 年 ② 1740 年 ③ 1748 年 ④ 1756 年

問 6 下線部分(5)について、この結果、オーストリアとフランスは婚姻関係を結ぶが、フランス王太子と結婚したのは誰か。

問 7 下線部分(6)について、外交的には孤立を深めていたプロイセンだが、プロイセンを支援していた国を記せ。

問 8 (h)を分割することに反対し蜂起を起こしたのは誰か。

問 1 a) ホーエンツォレルン家 b) フリードリヒ・ヴィルヘルム 1 世 c) フリードリヒ 2 世 d) マリア・テレジア

e) ハプスブルク家 f) オーストリア継承戦争 g) シュレジエン h) ポーランド 問 2 ドイツ騎士団 問 3 ②

問 4 ユンカー 問 5 ② 問 6 マリー・アントワネット 問 7 イギリス 問 8 コシュート

2004 関西学院大学 2/2, A 日程, 本学・地方 経済学部 抜粋

ポーランド王国は、1241 年に(三) モンゴル軍 によって侵略を受けた。その後、ドイツ騎士団の進出に対抗して、一時は(四) 隣国 との同君連合国家を形成し、ヤゲウォ朝のもとで繁栄したが、王朝断絶後になると、大貴族たちによる選挙王制体制下でしばしば外国の干渉を招き、最後はロシア・プロイセン・オーストリアの三国によって(五) 国家分割 の憂き目を見た。

問 3 ③このモンゴル軍を率いた人物はだれか。 a. フラグ b. モンケ c. ハイドウ d. バトゥ

問 4 ④この隣国はどれか。 a. エストニア b. リトアニア c. ラトビア d. フィンランド

問 5 ⑤ 3 度にわたるポーランド分割が完了した時期はどれか。

a. 18 世紀初期 b. 18 世紀中期 c. 18 世紀末期 d. 19 世紀初期

問 3 d 問 4 b 問 5 c